

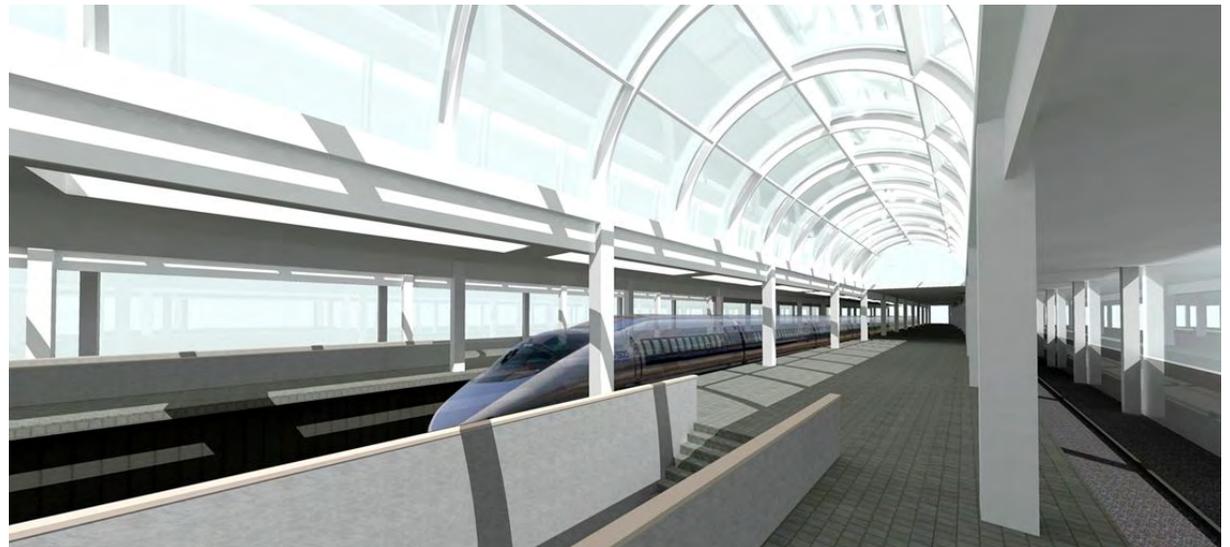
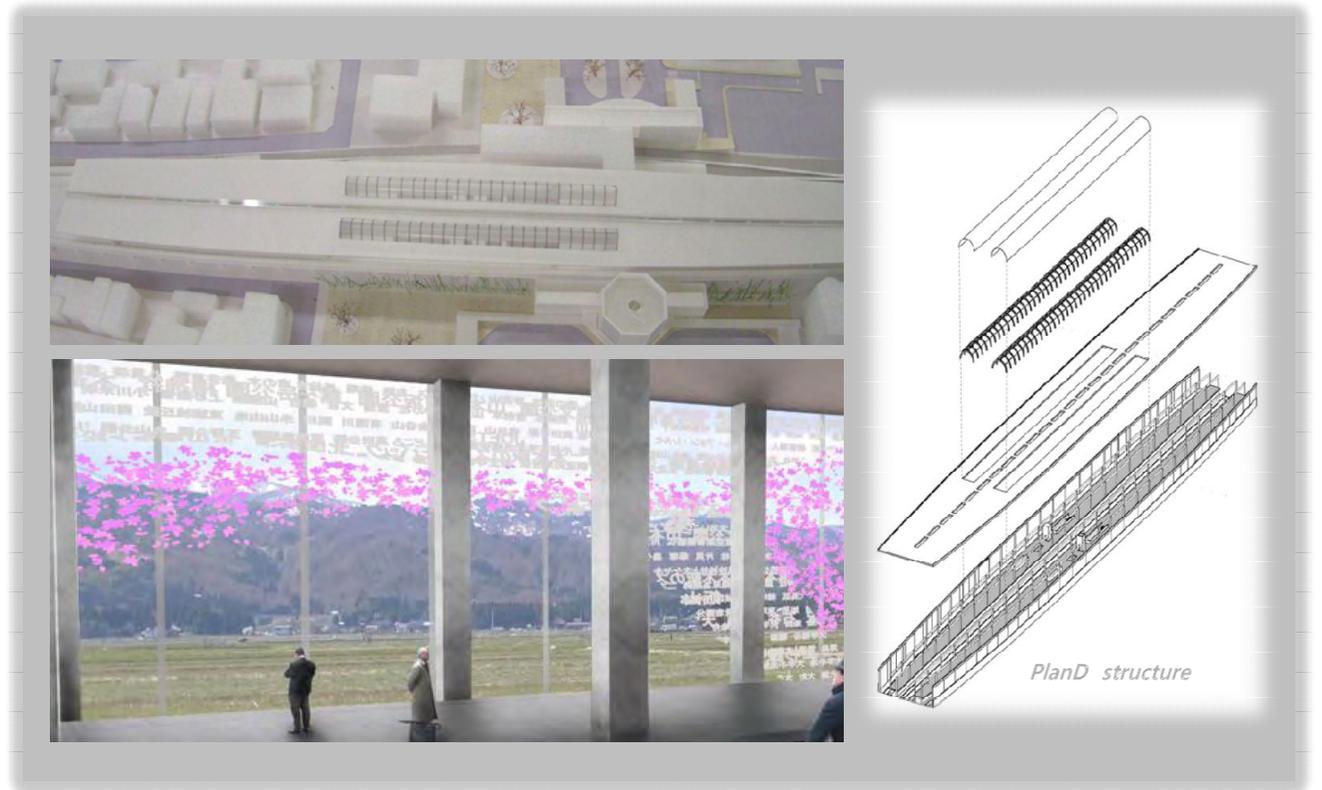
A案の「雪のトンネル」をイメージした屋根構造を駅舎の中央約100m区間に残し、ホーム内を明るい空間とする。

また、外壁ガラス面にはC案の文字や絵を焼き付ける仕掛けを取り入れ、新幹線を待つあいだも楽しむことができる空間となるよう工夫する。

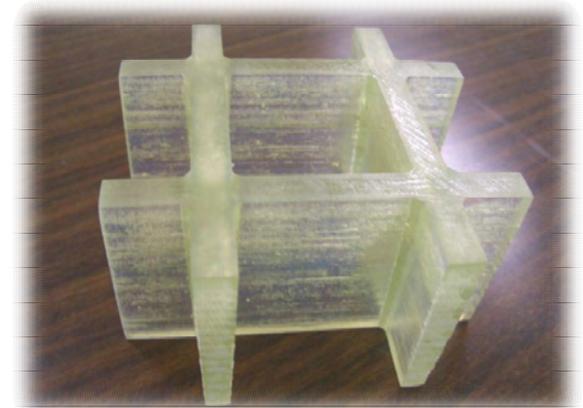
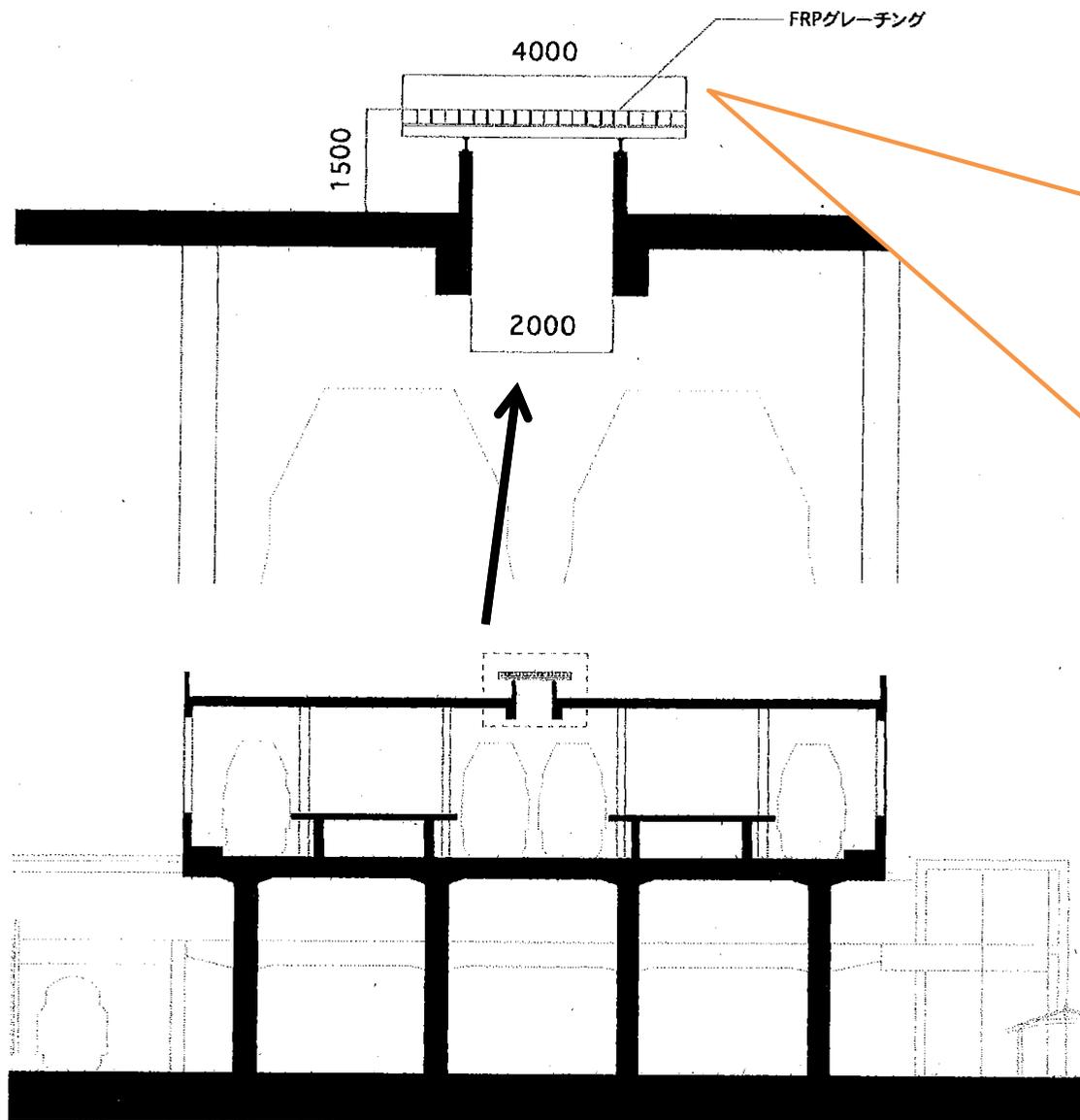
各案の特徴を一つにまとめ、機能性とともに入越らしさを総合的に打ち出した案。



上越(仮称)駅デザインコンセプト  
「記憶に残る駅」  
D案



# 「記憶に残る駅」 (駅舎屋根の融雪装置に関する技術提案)



屋根の雪を早く溶かす

## グレーチング構造

新幹線の屋根は耐雪型として整備される予定であるが、積雪の多い当駅においては、積もった雪が溶けにくいことが予想される。

これについて、表層からの陽光や大気エネルギーだけでなく、天井面からのエネルギーを利用することが考えられる。

道路側溝のグレーチングに積もった雪が、側溝内の空気の流れによって早く溶け、さらに溶けた水滴が落ちる原理を応用するものであり、当駅においても、新幹線構内に新幹線が進入する際の風をエネルギーとして利用することができるなど、効果的な方法であると考えられる。

A~D案いずれについても、この構造を屋根の中央に取り入れた提案を行っている。

参 考 上越市新幹線駅周辺地区まちなみ検討会議における駅周辺公共空間の考え方  
 (新幹線駅舎のデザインコンセプトに至るまでの検討の過程)

まちづくりビジョン

「百年まちづくり ~百年先も愛される 越後百会えちごひゃくえのまちづくり~」

- むかえる:もてなしの空間づくり
- つたえる:地域らしさの活用
- みちびく:地域との連携強化
- つなげる:百年先を見据えたまちづくり

新幹線駅周辺公共空間を統一する考え方

共通キーワード

- 上越のシンボル「さくら」
- 「和モダン」なデザイン
- 「賑わい・躍動空間」づくり
- 「ユニバーサルデザイン」な交通空間
- 地場材の活用



デザインの基本的考え方

西側コンセプト 大自然との対峙

在来線駅舎と昇降施設等の一体的なデザイン



光があふれ、  
自然のぬもりが感じられる

光のテラス

ダイナミックさ  
曲面でやわらかさを表現  
自然等への眺望・自然光  
妙高軸(公園)との連続性

都市との対峙 東側コンセプト

新幹線駅舎と昇降施設等の一体的なデザイン



都市に向かう人々が行き交う  
解放感ある空間

もてなしと交流の  
エントランス

シンボル性  
力強さ  
賑わい、機能性、心地よさ  
他にはない上越らしさ  
日本海に開かれた玄関口

東西をつなぐ新幹線駅舎のデザインコンセプト

記憶に残る駅

雄大な自然や歴史、桜に彩られた街並み、豪雪にも対応した駅舎構造など、  
地域性に対応し、そして、これらをデザインに取り込むことで、  
誰もが上越とわかるような“上越をアピール”する空間